



ヘアドネーションのためカットした髪を手にする千田彩梨さん（右）と佐々木草耶さん

## エールの「証し」髪を寄付

盛岡二高の千田さんと佐々木さん

### 応援団引退機に闘病の子へ

盛岡

子どもの医療用ウィッグ

作りに役立ててもらおうと、盛岡二高3年の千田彩梨さんと佐々木草耶さんは3日、2年間の応援団生活を通じて伸ばした髪をカットし、社会貢献に充てた。

2人はヘアドネーション（髪の寄付）に賛同する美容室へアクラブSK（盛岡市開運橋通）を訪れた。最初に自身ではさみを入れ、続いて美容師が切った。鏡に映る髪が徐々に短くなる様子を見ながら、思い出に浸った。

佐々木さんは2年の時、

友人のヘアドネーション体験を聞いて興味を持った。髪が伸び、応援団の引退を迎えたタイミングで活動を共にしてきた千田さんを誘った。

35センチ以上のカットを済ませた千田さんは「髪の長さは活動を頑張った証し。切ると終わりを実感する」と気持ち切り替え、佐々木さんは「入団して2年間はあつという間だった。受験に向けて頑張る」と決意した。

2人の善意は同美容室を通じ、病気などで頭髪の悩みを抱える18歳以下の子どもに対して医療用ウィッグを無償提供している民間団体に贈る。

友人のヘアドネーション体験を聞いて興味を持った。髪が伸び、応援団の引退を迎えたタイミングで活動を共にしてきた千田さんを誘った。

岩手日報令和2年6月5日付

この写真と記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。